

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル（科目名）		授業の種類		授業担当者	当該科目に関する実務経験
こども家庭支援論		(講義・演習・実習)		相馬 行男	
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択	
15 回	30 時間（2 単位）	2 年・後期		必修	
[授業の目的・ねらい]					
1. 子ども家庭支援の意義と原則について理解する。					
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。					
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。					
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解をする。					
[授業全体の内容の概要]					
・ 保育士による子育て家庭の支援に必要な知識の基礎的理解を促進する。					
・ 子ども家庭福祉の基本事項として、意義や役割、保育士としての基本姿勢、支援体制や内容等を習得する。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)]					
・ 子ども家庭支援論の理論と知識を学び、支援の充実を図るに要する理解と専門性を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 子ども家庭支援の意義と役割① 家庭の意義、役割、機能					
2. 子ども家庭支援の意義と役割② 家庭支援の必要性					
3. 子ども家庭支援の意義と役割③ 保育者が行う家庭支援の原理					
4. 家庭生活を取り巻く社会的状況① 現代家庭の子育てとコミュニケーション 地域社会の変容と家庭支援					
5. 家庭生活を取り巻く社会的状況② 男女共同参画社会とワークライフバランス					
6. 子育て家庭の支援体制① 子育て家庭の福祉を図るための社会資源					
7. 子育て家庭の支援体制② 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進					
8. 多様な支援の展開① 保育所入所児童の家庭への支援					
9. 多様な支援の展開② 地域の子育て家庭への支援					
10. 多様な支援の展開③ 特別な配慮を必要とする子どもと家庭への支援					
11. 家庭支援における関係機関との連携① 国、地方公共団体の機関					
12. 家庭支援における関係機関との連携② 民間機関					
13. 子育て家庭支援の課題と展望① 子育て中の親支援サービスの課題					
14. 子育て家庭支援の課題と展望② 子育て中の親子関係性支援サービスの課題					
15. 期末試験					
[使用テキスト・参考文献]					
MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 10 家庭支援論（伊藤 嘉余子 編著／ミネルヴァ書房）					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考査点(75％)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。					
・ 平常点(25％)					
・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					